



JIC インフォメーション

第 145 号 2007 年 6 月 10 日

年 6 回 1・2・4・6・9・11 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-1 小島ビル 6F

TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪オフィス: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 フェアステージ大手前ビル 5F TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア・旧ソ連
国際交流誌

日ロ文化交流 花盛り

日本全国で、ロシア文化フェスティバル2007が開催中!



＜モスクワで行われた狂言公演での一場面 報告記事は 2 ページより＞



JICのホームページをチェックしよう!

<http://www.jic-web.co.jp>

「はーはーはーはー」と「ほほー」

茂山狂言ロシア公演 加瀬由希子・・・2-4P

ロシア語学習のために「ニューエクスプレスロシア語」5P

「ロシアで出会った真っ黒な冬」青木緑・・・6-7P

白夜祭 ～マリインスキー劇場～ 加藤裕理・・・8-9P

ロシア文化フェスティバル・・・10-11P

劇団チャイカ公演「かもめ」報告・・・12P

ペンパル情報& J I C 情報・・・13-16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会) 会員を募集しています。
年 6 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

「はーはーはーはー」と「ほほー」

Ага, ого?

茂山狂言 モスクワ・サンクトペテルブルグ公演

茂山狂言モスクワ・サンクトペテルブルグ公演事務局

Japan Art Rainbow アートディレクター

加瀬由希子

去る3月の終わりにモスクワとサンクト・ペテルブルグで狂言の公演が行なわれた。出演したのは京都の茂山家(大蔵流)の茂山千之丞さん、茂山あきらさん、茂山童司さん、丸石やすしさん(80代の千之丞さん、50代のあきらさん、20代の童司さんは親子三代)。3月24日と25日にモスクワのストラスノイ劇場、28日と30日にサンクトペテルブルグのミュージック・ホールにて古典演目「棒しばり」と新作狂言「濯ぎ川」の2本立てをトーク付きで

上演、そのほか俳優のためのワークショップ(50人ほど参加、150人ほど見学)、小中高生のための狂言教室、演劇人を対象にしたレクチャー、大学での講義などもりだくさんのプログラムで、その模様はRTR,文化,ORT,NTV,RBCといった大手テレビ局のニュース番組や新聞、ラジオ、雑誌等で報道され、演劇人はおろか一般人のあいだでも「К Ё Г Э Н(狂言)」が話題になった。俳優のあいだではスリアシとともに口を大きく開けて全身で声を出す狂言の笑い「はーはーはーはー」を人に見せる人が続出。サンクトペテルブルグの夕日を背景に痛快に笑う狂言役者4人の映像はNTVの朝と夜のメインニュース内で流れ、すましたアナウンサーが笑い声になったほどだった。またORT放送ではエイプリルフール特集が組まれ、国立サンクトペテルブルグ大学で狂言役者たちが取り付いた「ふくろう」の霊の御祓いをしますと受講者に説明し、「ほほー」と言いながら羽ばたくふくろうの格好を全員にやらせた一幕を紹介。いったいぜんたい日本人は笑う民族なのかと疑問を投げかけていたロシア人に対する日本古典芸能からの逆襲だった。

ねらいは「狂言」をロシア語で広めること、アネクドートの宝庫、笑いの王国ロシアで日本発の「笑いの祭典」を開催すること。辛口のロシア演劇界で正当な評価を得ると同時に、

現地の人に喜んでもらうこと。実は同じ伝統芸能でも能や歌舞伎は知っていても狂言は聞いたことがないというロシア人が多く、「狂言」という名称自体がロシアに浸透していない現実があった(狂言を観たことのある日本人は果たしてどれくらいいるだろうか?モスクワに住む日本人で歌舞伎と狂言がごっちゃになっている方もちらほら...)。狂言はモスクワに何度か来ているのだが、たいてい能とセットで上演されており、

能と同一視している人は少なくないのだ。今回はモスクワとサンクトペテルブルグでの狂言単独公演(ロシアになってから初めて)ー600年の歴史を持つ日本最古の喜劇、現代に生き続けるその狂言の魅力を伝えるチャンスではあるが、役者さんたちの希望で字幕やイヤホンガイドは付けず、能舞台は使わないことに(=舞台装置なし)。しか

も囃子方ー音楽もなく、狂言の装束といえばどちらかと言うと海外ウケする派手な感じではなく、歌舞伎や能よりは地味、ロシア人がとびつきそうなお面もほぼない。舞台に立つ役者さんはわずか3名。一演目の上演時間は25分とロシア人にはあ

まりにも短い。ロシアの人たちに興味を持ってもらえるのだろうか、チケットを買ってもらえるだろうか...

紙面の関係で経緯は省くが、結果はモスクワでは3日前にチケット完売(チケット料金300~1500ルーブル、1ルーブル約4.7円)。会場入り口では余った券を求める人ばかりが。規模は大きくないとはいえ、モスクワで900人以上、サンクトペテルブルグでは1600人近くを数える観客を動員した(JICさんには学生支援シートを買っていただき、日本語を学ぶロシア人の優秀な学生さんたちに座ってもらった)。プレ・トークで千之丞さんが、「狂言役者は貧乏人でだ

ましの名人」と明かし、舞台セットも音響効果も何もない中で役者がすべてを担い、お客さんの想像力を働かせて、お客さんとともに舞台を作ってゆく、いわば「ないものをあるように



見せてしまう」芸術が狂言なのだとお話ししたが、この魔法のお話によってそのあとに続いた本番のお芝居は、かなりの程度言葉なしでもわかりやすくなったようだ。客席はよく反応し、笑いが起こっていた。

前半の「棒しばり」は、主人(丸石やすし)が太郎冠者(茂山童司)と次郎冠者(茂山あきら)の召使い二人が酒飲みだと知っていたので、留守中に飲まれては困ると、太郎冠者を後ろ手に縛り、剣術の稽古をしていた次郎冠者を稽古用のその棒に両手を縛りつけて、安心して出かける。しかしそれでもどうしても飲みたい二人は酒蔵に忍び込み、知恵を絞り、工夫を凝らし、両手の不自由な格好でまんまと酒にありつく。酔っ払ってすっかりいい気分になって踊り盛り上がっている場に主人が戻ってくるという話。注いだお酒の表面にご主人様の怖い顔が映っているのに驚きつつも主人が後ろにいることに結びつかず(まさに背後霊状態)、歌い、踊りつづける二人。そして再び酒の表面に主人の顔を見て驚き、また歌い、踊る。3 人の役者が顔を正面にそろえて、また動き出すのがなんともおかしい。話の筋は先がわかるくらい単純明快、それでいて台詞の面白さはロシアの人にはまったくわからない。それでもロシア人は退屈するどころか日本人の観客以上によく笑い、大きな拍手を送っていた。状況の滑稽さがよく訓練された役者の身体の上に生まれてきたときには、本当に言葉は不用なのかもしれないと感じられるよい舞台だった。モスクワとサンクトペテルブルグで訳なしで狂言を上演したのは初めてだろう。

休憩をはさんで後半のプレ・トークでは茂山あきらさんが狂言の現代的展開についてお話しされ、SF やベケット劇が狂言で上演されていることに触れた。ベケット劇の一部を披露してくれたが、意外にベケットが狂言にマッチすることに共感した人は少なくなかった。

後半の芝居は「濯ぎ川」。中世フランスの喜劇を狂言用に書き下ろした戦後の新作狂言。嫁(茂山童司)と姑(茂山千之丞)のいいなりになり、家の仕事を何から何までやらされ、



文句を言われ続ける気の弱い男(丸石やすし)。女たちの言うことにその都度対応するのにほとんど疲れ、頼みたい用事を紙にまとめて書いてくれ、書いてあることはすべてやる、書いてないことはしないと取り決める。結果、長い仕事のリストが男に手渡される。ある日男は川で洗濯をしていると



きに、うっかり(あるいはわざと)嫁の着物を流してしまう。着物を拾い出そうとした嫁が川へ落ち、流されていく。「婿殿、娘を早く助けて!」という姑に対し、紙に書いてないことはできないと居直る男。「私たちが悪うございました」と姑に謝らせ、男は得意気に嫁に手をかす。助け

られた嫁はいつそうがみがみと男をどやしつける。ロシア語でも尻に敷かれた男性のことを「ハイヒールの下敷きになった男」という言い方があるが、リ

アティアーな共感しやすい内容に終始会場は沸いていた。モスクワもサンクトペテルブルグも会場は熱気に包まれ、タイトルの「笑いの祭典」にふさわしい公演になった。「内容というよりは役者たちの演じる力に涙が出てきました」という人も。ある新聞の劇評では「舞台は字幕なしでも非常にわかり易く、楽しむことが出来た。……役者たちは世阿弥がその理論書で述べた「花」を与えてくれた」。アンケートの結果、85%の人が満足していることが分かった。出演者も「観客を通じて上昇する国の熱さを感じました」と感想を述べていた。

茂山狂言のロシア公演は国際交流基金(ジャパン・ファウンデーション)が主催し、日本大使館、サンクトペテルブルグ総領事館、日本センター、日本商工会が後援、現地日本人スタッフが制作、JIC(ジェーアイシー旅行センター)を含む現地日本企業からさまざまな協賛をいただき、日本人コミュニティを軸にロシアの関係者を巻き込むこんだイベントになった。劇場ホワイエでも草月流と折り紙デザイナーによる空間の装飾、日本みやげ販売、浮世絵ギャラリー、インスタレーション、音楽などの試みがなされて賑わった。だが、当然ながら、時を敏感に肌で捉えて、現地が求めるものを見極め、クリエイティブに提示し続けるのがアート現場。同じことの繰り返しでは価値あるものは生まれない。茂山狂言の生きた笑いの芸術も決して博物館で展示されるものではなかった。「伝統とはそれを乗り越えるためだけにある」と茂山千之丞さんが語ったそうだが、400 年以上、伝統の芸を生きた形で実践し続けてきた家だからこそ言える深く含蓄ある言葉だ。4回の



舞台はロシアのお客さんとの一回一回の出会いと生きた呼吸の中で作られ、我々制作する者の課題も微妙に変化していた。今後もそうあり続けなければならない。

ロシアの日本文化イベントは、これまで大使館を中心として定期的に行われたり、ロシアの文化団体が受け入れて運営したり、または一部の企業の協賛を得て実現したりしているが、今回のように日本の官と民とがさまざまな力を合わせて、多方面での参加・支援をしたのは前例がなく画期的だった。ロシアの社会も、住む人の感覚も刻々と変化しており、新しいロシア社会で日本人や made in Japan が必要とされるかは常に日本人の目の前の課題になっていると言ってよい。いまやロシアで日本ブームは去りつつあるという見方がある。今は必要なものは何でも手に入るような時代、その中でソ連時代に「夢の国」と仰がれた日本イメージはロシア人



の意識のなかで下がり、関心は薄れているとも指摘されている。また、これから日本とは関係ない個の実力の時代になったという人もいます。

ずれにせよロシアと付き合う以上、日本人が地道に自らの存在を通じてロシア人の理解や関心や評価や信頼、友情を勝ち得ていく作業は不可欠だ。その意味でも日本が誇れる良質の文化をしかるべきタイミングでしかるべき形で発信する作業が今ほど求められている時はないと感じている。

狂言ワークショップに参加して

JIC モスクワ ドミトリー・トカチェンコ

今年 3 月の後半に日本の狂言公演がモスクワとサンクトペテルブルグに来ました。JIC (ジェーアイシー旅行センター) もこのイベントに協賛していましたが、個人的にもモスクワのストラスノイ劇場でのワークショップに参加してきました。

入場料は無料だったので、日本の演劇や文化に興味を持っている人は誰でも参加することができました。しかしそのワークショップに来たお客さんの中で一番多かったのは、やはりモスクワの大学の俳優学部などの教師と学生たちでした。



ロシア人が慣れているロシアの演劇、ヨーロッパの演劇の演技方は狂言のそれとは全然違いますので、まずは基本から説明をしなければなりません。ロシアの俳優たちは自分が演じる役になりきり、自分の中で本当の感情を生んでそれを表現するのが普通です。その感情の表し方は自分の自然な感情になればなるほどその俳優が上手だと思われれます。そんな事を勉強している学生たちも、普通の人も、狂言における感情の表現方法を見てびっくりしていました。逆に事前に決まった表現だけで演ずる(=狂言の表現方法)というのは、ロシア人の目

から見ると、「あれ？なんであいつの感情は自然じゃないの？」と思ってしまいます。参加者の一人、ムハート演劇スタジオ(モスクワ芸術劇場付属学校)の教師、タバコフ劇場の俳優、エフドキヤ・ゲルマノワ氏は、「下手な俳優に似ているな」とまでも言っていました。

ただそれでも、日本の狂言師によるワークショップを体験し、狂言師がプロであることは明らかだったので、「さすが、日本って何でもロシアとは全然違う」と思い、翌日も「不思議な日本の演劇(=狂言公演)」に興味を持って観ました。

演劇を勉強している学生たちにとって、ワークショップの



時に習った狂言の動き方、話し方、表現方法をマスターするのはとても楽しそうでした。特に皆が気に入っていたのは、笑い方、泣き方、そして鶏の鳴き方でした。ワークショップが終わったあとに、何人かの学生がストラスノイ劇場のそばにある並木道に出て、通行人をおびえさせながら、ラフマニノフの像

の前でその練習をしていました。それほど印象的な(おかしな?)表現方法だったということでしょう。狂言の表現は、ワークショップで体験したときには「おかしい」と感じた人も、翌日、公演を観た後には、「面白かった、言葉が分からなくてもよく伝わった、新しい表現方法に興味を持った」と言っていましたよ。



ロシア語は文字でつまづいちゃう・・・？
格変化があつて難しそう・・・？

「イエイエ、この本なら最後まで行けますよ。」



『ニューエクスプレス ロシア語』

「ロシア語のかたち」「ロシア語のしくみ」の{白水社＋黒田龍之助}コンビによる、「かたち」「しくみ」の続きともいえる入門書が出た。「ニューエクスプレス」シリーズの「ロシア語」である。

「ロシア語のかたち」では、活字だけでなく、現地で撮影してきた看板や商品の名前ロゴなどの写真をとり入れ、自分の名前を綴ってみたり、クイズの答えを探ったりしながらキリル文字をおぼえることができた。「ロシア語のしくみ」では、文法の細かい規則には触れずにロシア語での世界の分け方やロシア語では何が大事なのかを“読んで”(ゴロ寝して読んでも!) 知ることができた。今度ははいよいよロシア語を「学ぶ」段階だ。

全体としては「非常にあっさりしている」という印象を持つ。著者自身が「・・・エクスプレスですから軽快に進みます」と表現しているように、各事項を深追いせずに通り最後までを概観するといった感じ。

例えば、文法事項を紹介する順番、紹介の仕方など、著者の外国語教師としての経験をもとに、かなり工夫されているのだろうと思われるが、大学の専攻として古典的に教授されてきた者から見ると「この内容はもっと早く提示しておいても・・・」「この内容は注意書き程度ではなく1つの項目として紹介した方が・・・」などと思ってしまうようなところもある。しかし、すべてを一度に紹介するわけにもいかない。著者が言うように「軽快に進む」こと、これが大事だろう。軽快なスピード感を楽しみながら一定のテンポでどんどん先に進んでいけば、一冊終わった時には、出てきた順番など関係なく、すべての内容を通してきたことになる。そしてその“すべての内容”というのもロシア語の基本文法を網羅してはいるながら、巻末には「ロシア語の勉強をさらに続けるために」というページが用意されていて、「語彙を増やしたい人のために」「表現を増やしたい人のために」「変化型をまとめた人のために」「リスニング力を伸ばしたい人のために」という項目で辞書や書籍などが紹介されている。そうそう、「ニューエクスプレス」には巻末の変化表がない。紹介されている「必携ロシア語変化総まとめ」(白水社)を購入するもよし、自らノートに表を作っていくもよし、あるいは初級者向けの辞書には巻頭または巻末に変化表がついているものだから、それを利用するもよし。

白水社ホームページで書評も連載する黒田氏のこと、シリーズ全体の方針にもある程度意見が反映されているかもしれないが、各課や全体のページ数などについてはシリ

ーズとしての制約が大いにあったことと思う。そんな中でも、1音節語であってもアクセントを持つ語／持たない語の区別をして、“持つ語”であればアクセント記号を振る(я́、не́т など)、各課の本文の会話がすべて вы (敬称) のやり取りに統一する、などの特色も見られる。特色といえば、外国語を勉強している人の中にはけっこういそうなのに、外国語教科書にあまり登場することのなかった、マイペースでちょっと何を考えているのかわからないようなキャラクターのツバサ君も面白い。

また、CD に収録されているロシア語を有効に利用することこそ、外国語学習法の基本は「発音をおろそかにしない」こと、「文をひたすら暗唱していく」と語る黒田氏の著したこの入門書の持ち味を最大に引き出すことになるだろう。2課終わるごとに1回入る練習問題では、見開き2ページの右側1ページが(ほぼ)毎回ロシア語によるダイアログ2つの構成になっていて CD に音声収録されている。各課の本文も例外なくダイアログになっているので、それもあわせて、発音に気をつけながら暗唱するよう努めたい。

はじめてロシア語を学ぶ人の独学用テキストにうってつけだが、すでに一通り学習を終えた人にも(CD を利用すること)を、教室で使うことも(講師が内容を補える点で)おすすめできる。

(曾根 直子)



『ニューエクスプレス ロシア語』(CD 付)

黒田龍之助 著 白水社

税込価格 1,995 円(本体価格 1,900 円)

<http://www.hakusuisha.co.jp/language/nx.php>

◇最初にことばの特徴や歴史をご案内。◇発音のコツと骨組をやさしく解説。◇各課 4 ページ立て全 20 課。見開き 2 ページにやさしい会話と訳と単語。次の 2 ページの文法説明はここがポイント！ですっきり納得。◇親切ヒント付き！の練習問題。解答はその場で確認できる現場主義、聞き取りの練習も。◇テーマ別の単語と表現のコーナーで会話力も OK。基本を覚えたら使ってみよう！◇巻末には使用単語をすべて掲載、辞書なしでも勉強できる便利仕様。◇付録 CD 付き。会話と単語、聞き取り練習問題、表現力アップを収録。

ロシアで出会った真っ黒な冬

南ロシア・クラスノダール旅行記 <後編>

～青木 緑～

友人に、春休みにロシアに行ってきたと話すと、どこで何をしてきたの？と問われる。モスクワではもちろん、クレムリンを見た。赤の広場を歩いて、グム百貨店のカフェでお茶をした。有名な教会の写真をたくさん撮って、博物館にも行った。モスクワ大学を見に行き、ヴェルニサージュ市場でお土産にマトリョーシカを買って・・・こうしてモスクワを楽しんだ後、次に向かった先は南ロシアの都市クラスノダール。クラスノダールでは、ええと、何をしたかしら。私はこう答える。「それから、クラスノダールっていう町で、“生活”してきたよ。」・・・生活？

外国からの旅行者が少ないクラスノダールには、有名な観光名所のようなものはない。それでもこの町で過ごした二週間は、あれほど充実していたモスクワでの日々よりも、かなり鮮明な思い出として残り、今もなお私の心を占領している。思い出に色をつけるとしたら、モスクワはパステルカラー、クラスノダールは原色で塗りつぶしたい。それはきっと、あの土地独特の真っ黒な土の色のせいでもあり、そしてあの土地で一人の住民として生活した毎日のなかに、たくさん濃い思い出があるからなのかもしれない。ロシア旅行記の後編では、クラスノダールで見つけた、たくさんの魅力について書きたいと思う。

ロシア人ジェーニャの家は、古いアパートの一角にある。私が今までの人生で見たなかで最も狭くて汚いエレベーターに乗って辿り着いた、これまた古い扉を開けると、そこには、エレベーターの粗末な姿からは全く想像できないほどの、清潔で、あたたかく、心地よい空間が広がっていた。お父さん、お母さん、そして可愛い猫のリョーリャに迎えられ、クラスノダールでの生活の第一日目スタートした。前日まで「観光客」としてモスクワのホテルに悠々と宿泊していた私は、その



<クラスノダールの街並み>

日からクラスノダールの「住民」となった。なぜって、ジェーニャの家族の中で、私は単なる「外国からのお客様」ではないということが、その日のうちに身をもってわかったからだ。夕食の後、家族全員分の食器を洗ったのは、私だったから。



毎日、お父さんは仕事に出かけ、ジェーニャは大学に行ってしまう。猫のリョーリャも昼寝中で相手にしてくれず、一人手持ち無沙汰にしていると、アイロンを手に、お母さんが現れた。「ミドリ、アイロンがけてちょうだい。」ロシアに来て、アイロンがけをするとは、思ってもみなかった。普段アイロンをあまり使うことのない私は、お母さんの丁寧な指導を受けながら、悪戦苦闘しつつも大きなカーテン3枚にアイロンをかけた。その後は、部屋の掃除。「音楽でも聴きながら、楽しくやりなさいね。」と言うと、お母さんは自分の部屋に去って行った。言われるまま、一生懸命モップで床を掃除しながら、考え込んでしまった。ロシアまで来て、私はどうして、掃除などしているのだろう、一体何のために、ここまで来たのだろうか？・・・ふと窓の外に目を向けると、ポカポカ陽気のクラスノダールの空の下で、小鳥のさえずりがきこえた。アパートの他の部屋の窓が見えた。



<森で大好きなリスを発見！>

同じ建物の中に、それぞれの家庭の窓があって、一つ一つの家族の息遣いがきこえてくるようだった。路上では、黒い土と同じ色をした野良犬たちが、あっちで寝ていたり、こっちで寝ていたり。道端には、立ち止まって話に夢中になっているロシアのお母さんたち、静かに手を取り合って歩く老夫婦・・・時間がゆっくりと流れていた。ロシア語のラジオを聴きながらモップがけをしている自分が、このロシアの日常生活の一部になっているということが、突然感じられた。そう思ったら、なんだか、とてつもなく嬉しくなった。ここにこそ私がロシアに来た意味があるのではないかと、胸がどきどきした。

休日は、街の中心に遊びに行った。どうせ日本ではあまり知られていない小さな町だから、と軽く見ていたら、街の賑わいぶりに驚いてしまった。目抜き通りは週末には歩行者

天国となり、ショッピングをしたり、仲間同士で楽しそうに語らいながら歩いたり、音楽を奏でたり、多くの人々がそれぞれの休日を思う存分楽しんでいて、アイスクリームを片手に休日の街を楽しんでいると、ジェーニャは大学の友達にばったり遭遇し、二人は握手を交わして挨拶をしていた。東京から故郷の長野に帰った時の気持ちを思い出した。長野では、街を歩いていると、必ず知り合いに遭遇する。そして大都会東京にはない、小さいけれどあたたかい賑わいが、長野にはある。クラスノダールにも同じ空気を感じ、嬉しくなった。モスクワと比べると、不便なことは多い。しかし、小さい町だからこそ見つけることのできる、たくさんの小さな幸せがあった。地下鉄のないクラスノダールでは、毎日の移動手段はバスやマルシュルートカ(乗り合いタクシー)だった。ある日マルシュルートカに乗ると、運転手のおじさんが話しかけてきた。「お嬢さんはどこから来たんだい？」このように、初対面の人と気軽に話すことが、クラスノダールでは多かった。ジェーニャは、私が日本でロシア語を勉強する学生だと話し、彼は無言でうなずきながら聞いてくれていた。マルシュルートカでは、車を降りる際、停めてもらいたい場所を自ら言わなければならない。ロシア語を勉強しているのだから、それぐらい言えなくてどうする。私はこの時初めて自分で指示を出した。「すみませんが、次の停留所で停めてください。」・・・返ってきたのは、沈黙。私のロシア語は通じなかったのだと思った。するとしばらくして、運転手のおじさんはにっこりと笑い、こう言ってくれた。「マラジェッツ！(よくできました！)」この時、今までロシア語を勉強してきて、本当によかったと思った。

クラスノダールの、何がそんなに良かったのかと訊かれても、簡単に答えることは難しい。大都会モスクワに比べたら、何の面白味もない、小さな町にすぎないのかもしれない。しかし、だからこそ良かったのだと思う。観光客としてではなく、



＜3 月 8 日女性の日＞

(たくさんのお花をもらいました)

なかなか大変だが、その分、たくさんのお会いが待っている。日本でロシアの旅行ガイドブックを見てみると、ほとんどはモスクワとサンクトペテルブルグの案内ばかり。一般的な旅行会社で扱っているロシア旅行も、これらの主要都市を巡るツアーばかりだ。あんなに広い国である。ロシアの本当の魅力を感じるためには、ぜひ地方都市も覗いてみるべきだと私

一人のクラスノダール市民になりきって、家事をして、市場で買い物をして、街を散歩した。現地の人々と同じように「生活」したことが、私にとってかけがえのない思い出となった。個人旅行は

は思う。モスクワ＝ロシアだと思っていた私は、間違っていたようだ。南ロシアの温暖な風土、陽気な人々に囲まれて、もう一つのロシアを知ったのだった。そうそう、クラスノダールでは、お土産もモスクワと違うのだ。土産物屋には、モスクワでは一度もお目にかからなかった、コサックの人形がたくさん並んでいた。街角にも、コサックの銅像なんかがあったりして、土地のカラーを感じさせられた。もちろん、土産物屋には、コサック人形と並んで、おなじみのマトリョーシカが何百体も並んでいたが。あんなに広い国であ



＜クラスノダールから足をのばして～

黒海に面する港町ノヴォロシク＞

る。それぞれの土地にそれぞれの魅力があり、それぞれの土地に共通する要素もある。おもしろい国だ。これからは、あの国の底なしの魅力に、どっぷりと浸かっていくのだろう。次はどのような出会いが待っているのか、楽しみでならない。

最後に、「旅行記を載せてもらいたいんですけど！」という、私の自分勝手に強引な要望をこころよく引き受け、インフォメーション紙に記事を書かせてくださったJICの皆様には、厚く御礼申し上げたい。本当にありがとうございました。

私のロシア探求は、まだまだ続きそうだ。

＜終＞

デミトリー・ツシキン ピアノリサイタル

いま最も将来を期待される「若い天才」ピアニスト♪

異才を放つ 15 才のモスクワの秘蔵っ子♪

待望の来日公演・デビューリサイタル♪

2007 年 7 月 2 日(月) 18:30 開演(18:00 開場)

ルーテル市ヶ谷センター

入場料 前売 3,000 円 当日 3,500 円

ピアノリサイタル公演実行委員会主催

チケットお申込: 日本・ロシア協会

03-3261-4897(木村)



JIC でもチケット取り扱っています。前売り 2,500 円です。詳しくは JIC までお問合せください♪♪

現在、ロシア・サンクトペテルブルクのマリインスキー劇場では“白夜祭”が催されています。マリインスキーは、モスクワのボリショイと並んで、ロシア芸術の双璧をなす世界最高峰の劇場であり、しかもバレエに関しては互角でも、オペラに関してはマリインスキーが優勢であるとの見方が一般的なほどです。そしてそれは世界的な指揮者、ゲルギエフの功績によるところが大きいと言われています。文字通り世界中飛び回っている彼が、この時期だけはペテルブルクに長期留まり、集中的にタクトを振る。そういう一大イベントが“白夜祭”であり、世界中からオペラ・バレエのファンが集まります。今年は 5 月にオープンしたコンサートホールも稼働させて、より一層華やかなフェスティバルになりました。この時期ロシアへ行かれるなら、是非(!!)マリインスキー劇場へ足を運んで下さい。

とはいえ、豪華な催しが毎日、しかも1ヶ月以上も続くこの“白夜祭”。どれを観ればいいのかイマイチよくわからない、という方も多いと思います。そこで、プログラムをもとにどの公演がお勧めなのか、ご紹介したいと思います。なおプログラムは随時更新されますので、チケットを入手する際に確認することをお勧めします。(ホームページアドレス：<http://www.mariinsky.ru/en/>)

まず、このフェスティバルで予定されているプルミエ公演(新作披露公演)から。プッチーニの名オペラ「トスカ」(6/3、6/10、6/26)、ロシアのプロコフィエフが音楽とともに台本も手がけた「賭博者(The Gambler)」(6/21、7/6)の 2 演目です。特に 6/21 はロシアの国民的オペラ歌手ボリス・ガルージンが出演予定なので、今フェスティバルのハイライトとなっています。6/10 以外はワレリー・ゲルギエフが指揮を務める予定です。

また、6/19「ドン・カルロス」にはベルリン国立歌劇場を拠点に世界で活躍するルネ・パーペが出演、指揮をするのはワレリー・ゲルギエフ。7/8「ラ・ボエーム」ではマリインスキーの花形ソプラノのアンナ・ネトプレコが、ゲルギエフの指揮でムゼッタを演じるということで注目を集めています。

このように、オペラにも見逃せない公演がいくつもあるのですが、注意すべき点がいくつかあります。まずオペラは公演時間が長く終演時間が 11:00 を過ぎることも珍しくないの

で、帰りの交通手段は必ず確保しておきましょう。そして一幕一幕が長い上、もともと椅子も硬いので、オペラを見慣れている方ならともかく、何かと疲労がたまる旅先では負担が大きいことは否めません。参考までにお話すると、ロシアの人たちは、無理して座り続けることはしません。各自でホワイエに抜け出して休憩を取ったり、あるいは体力の限界を感じたところで帰る人も少なくありません。もし可能であれば、通路側の席を選んで、自分のペースで鑑賞するのがいいと思います。

なお、先ほど紹介したオペラ作品のうち、「ドン・カルロス」は上演時間が 3:50 と少し長いですが(それでもオペラとしては標準ですけど)、「トスカ」(上演時間目安 2:30)、「賭博者」(上演時間目安 2:30)、「ラ・ボエーム」(上演時間 2:25)と短めなので、ご安心下さい。そのほか「トゥーランドット」(7/1 上演時間 2:35)も楽しめると思います。その他、字幕もロシア語または英語で理解するのに時間がかかるので、あらかじめ日本であらすじを確認していく方が無難かな、と思います。

というわけで、個人的にはバレエ公演の方がとっつきやすいのかなと思っています。バレエの公演時間は比較的短めで、元々言語を使わないように出来ているので予備知識がなくても「あ、キレイだな」と楽しめることが多いからです。ということでバレエについて重点的に紹介したいと思います。

「白鳥の湖」(6/9、6/23、6/27、7/12)

「眠れる森の美女」(6/12)



ワールド・スタンダードとなっている演出です。皆さまが「クラシック・バレエ」と聞いて連想するバレエそのものだと思います。上演時間は長めですが(「眠れる森の美女」は 3:55)、世界初演が行われた、本家本元であるマリインスキー劇場でこの作品を見る価値はあると思います。

「くるみ割り人形」(6/17 マチネ/ソワレ)

音楽はチャイコフスキーのままですが、コンテンポラリー(モダンダンスがさらに進化して出来たジャンル)なので、予備知識なく観る方はびっくりすると思います。この作品のウリは、なんといってもロシア美術の巨匠ミハイル・シェミャーキンのデザインした舞台美術・衣装です。「バレエを観る」のではなく、彼のバーチャル絵本を覗く感覚で鑑賞すれば、楽しめるのではないのでしょうか。個人的な感想は「変は変だけど、ここまで変な世界はロシア人にしか作れない」です。

「ドン・キホーテ」(6/2、6/28、7/4)

「海賊」(6/2、7/3)

「ドン・キホーテ」はスペインが舞台で、キトリとバジルというカップルが親の反対を押し切ってめでたく結婚するまでを描いたコメディです。

白夜祭



～サンクトペテルブルグ マリインスキー劇場～

「海賊」はトルコ治下のギリシャを舞台に、海賊とギリシャ娘が出会って恋に落ちて、略奪されて奪い返してまた略奪されて…という少女マンガのようなお話です。コミカルで踊りが多い「娯楽」作品に分類されるこの 2 作ですが、衣装も美しく、まして踊るのは世界に誇るマリンスキーのダンサーたちなので、見ごたえがあります。退屈しない、眠くならないという意味で、バレエ初体験の方には、一番とつきやすい演目ではないかと思います。

「愛の伝説」(7/2)

トルコの詩人、ナジム・ヒクメトの作品がモチーフになっています。タイトルにちよつとびっくりしたかたもいらつしやるかと思いますが、作品そのものにあまり甘さはなく、とてもエネルギーが作品です。話の筋がわかりにくいので、予習が必要ですが…。美貌の女王メフメネ・バヌーは、その美貌を犠牲にして妹姫を病から救ったのに、その妹姫に堂々と想い人を奪われてしまう、というようにあらずじだけ追っていくと、とんでもない話なのですが、実際舞台でみるとソヴィエト・バレエ独特の迫力に圧倒されます。

「ロメオとジュリエット」(7/9)

「フォーキン・プロ」(7/15)

マリンスキーのプリマ・バレリーナであるディアナ・ヴィシニョワが出演を予定しているということで、こ



＜ワガノワ・アカデミー内の博物館＞

のフェスティバルのハイライトになっています。上演時間は 3:30 と長めですが、ロメオとジュリエットのデュオ、超絶技巧が楽しめるコミカルなマキューシオの踊りや、カーニバルの場面、重厚な迫力のある舞踏会の場面など見所が多く、そして何よりプロコフィエフの美しい音楽が人気の秘密です。「フォーキン・プロ」は、演目としてもお勧めです。ショパンのエチュードを使った“ショピニアーナ”、リムスキー＝コルサコフのエキゾチックな音楽が印象深い“シェヘラザード”(ヴィシニョワはこの作品で女王ゾベイダを踊る予定)、ロシアの民話をモチーフにした“火の鳥”の 3 つの小品が上演されます。マリンスキーの海外公演でもとても人気があります。

ヴィシニョワをとりあげたので、最後にいまや世界の宝といわれるマリンスキーのもう 1 人の花形バレリーナ、ウリヤナ・ロパートキナを挙げておきます。6/1「バヤデルカ」、6/6「ジュエルズ」に出演を予定していますが、5/25 現在では 7 月の出演予定日は確定していません。ですが、サンクト・ペテルブルクを本拠地に定めて、他のプリマよりも多くのマリンスキー劇場での出演をこなしている彼女ですから、出演可能性は高いです。もし、サンクト・ペテルブルクでロパートキナを観られたら、バレエファンに自慢してみましよう。嫉妬されることうけあいです。そのくらい威力があるバレリーナです。

(加藤 裕理)

ワガノワバレエ学校卒業公演

世界中に広がるバレエの流派、ワガノワ・メソッドの総本山であるワガノワ・バレエ・アカデミーは、かつてマリンスキー劇場の付属バレエ学校でしたが、現在も密接な関係にあり、アカデミーは、毎年このフェスティバルの一環として卒業公演を催しています。しかし今年は「卒業公演」ではないことをご存じでしょうか。10～17 歳の 8 年一貫制の教育システムが 7 年(中等課程)+2 年(高等課程)の 9 年制に移行したのに伴って今年は卒業生がいないため、「卒業公演」ではなく「上級生によるコンサート」という形で行われます。今回の改革の目的はより教育水準をより高いレベルに引きあげ、ロシア・バレエの名声を維持していくこと、とされています。その結果があらわれるのはもう少し先だとは思いますが、まずは目下注目されている最上級生を、ワガノワ・バレエ・アカデミーの副校長であるタチアナ・ゴロヴィナさんに伺ったので、ご紹介します。

まず 1 番の注目株は、2006 年 6 月に行われたワガノワ国際コンクールで 2 位となったアナスタシア・ニキーチナです。2 位といっても女子は 1 位該当者なしという結果だったので、実質 1 位です。ロシアでは、優秀な生徒は優れた教師の下に集められるので、その生徒にかかる期待は、ついているコーチの名前から大体推し量ることができますが、彼女は元マリンスキーのプリマであり、現在は教師としても高名なイリーナ・シニコワに師事しています。

また、同コンクールで男子入賞を果たし、2004 年のアカデミー来日公演にも参加している、イリヤ・ペトロフも期待の星です。ちなみに、このコンクールでは日本人の Nakaya Masahiro さんが男子 3 位入賞を果たしています。この 2 人はマリンスキーの看板スター、ファルフ・ルジマトフやイーゴリ・ゼレンスキー、イーゴリ・コルブなどを育てたゲンナージ・セリュツキーの教え子です。その他にもセルゲイ・ウマーレツ、アンドレイ・ソロビョフ、ダリヤ・バリノワなどが将来有望とされています。

今年のコンサートは「“パキータ”グラン・パ」、若手振付家による「“ラウレンシア”よりキャラクター・ダンス」などが予定されています。6/6, 6/7, 6/9 に行われるので、残念ながらこの記事が出る頃には公演は終わっているのですが、もし数年後にマリンスキーなどへ訪れる機会があつて、彼女たち

の名前を目にすることがあれば、小さい時から才能を磨き続けて着実にステップアップしてきた子達の踊りをじっくり観ていただきたいと思います。

アナスタシア・ニキーチナ



今年も!

ロシア文化フェスティバル2007 IN JAPAN

2006 年に引き続き、2007 年もロシア文化フェスティバルが開催されます。以下の通り、日本各地で様々なプログラムが実施される予定です。なお、文化フェスティバル 2007 日本組織委員会には、日露友好議員連盟、日ロ協会、日本ユーラシア協会、日本対文協、JIC 国際親善交流センターなど日露文化交流に携わる多くの団体、個人が賛同して参加しており、事務局は昨年同様、日本ユーラシア協会がつとめています。

様々なロシア文化にふれることのできるチャンスです。ぜひこの機会にお楽しみください。



◆プログラム◆

1、モスクワ国立アカデミー室内合唱団によるフェスティバル開会のガラ・コンサート(45 名)

7 月 2 日(月)東京=C・C・LEMON ホール(日本組織委員会)

2、モスクワ国立アカデミー室内合唱団コンサート

7 月 4 日(水)東京・レモンホール(日本ユーラシア教会)

5 日(木)横浜・神奈川県民ホール

6 日(金)東京・労音ホール=日本合唱団との交流

7 日(土)東京

3、ロシア文化人講演会(シュビトコイ文化映画庁長官)

7 月 3・4・5・6 日 早稲田大学・昭和女子大・東京外大・東大予定

4、全日本ロシア語コンクール

7 月 1 日(日)予定 東京ロシア語学院ホール(東京ロシア語学院&日本ユーラシア協会)

5、ロシアサーカス公演(全国各地 ポリショイサーカス)

7~9 月 19 都市 225 公演

6、「ロシア皇帝の至宝」展

3 月 20 日~6 月 17 日 東京・江戸東京博物館

7~9 月 大阪・大阪国立国際美術館

(TBSTV 文化事業部)

7、ロシア現代装飾工芸美術展覧会

マトリョーシカ展・教室 / ロシ



ア・レース編み展・教室

7 月 31 日~8 月 4 日 東京(日本組織委員会)

T・アブホワ&O・モイセーエンコ両氏の講演会と展示会

8、「ロシアバレエのスターたち」アーティストの公演(16 名)

ポリショイ劇場及びマリインスキー劇場のアーティストが参加。8 月 30 日・31 日・9 月 1 日・2 日 東京・新国立劇場(ジャパンアーツと日本組織委員会)

9、ロシア絵画の真髄—国立ロシア美術館展

(産経新聞社・東京富士美術館)

4 月 28 日(土)~7 月 8 日(日) 東京都美術館

8 月 25 日(土)~9 月 24 日(月) 金沢 21 世紀美術館

10、ロシアアニメーション映画祭

9 月 東京(東京TVブロードバンド&フロンティア・ワークス・トライフュージョン) 作品=チェブラーシカ、森は生きている、せむしの子馬、雪の女王

11、S・Ya・マルシャーク生誕 120 周年記念絵本原画展

9 月~11 月 長野(ちひろ美術館)

12、M・プレトニョフ指揮 ロシア・ナショナル管弦楽団公演

(ジャパンアーツ)
5 月 30 日(水)佐賀市文化会館、31 日(木)愛知県芸術劇場、6 月 2 日(月)よこはまみなとみらいホール、3 日(日)茨城県立県民文化センター、5 日(火)~6 日(水)東京オペラシティホール、8 日(金)はつかいち文化ホール、10 日(日)ザ・シンフォニーホール

13、ロシアン・ナイト—ユーリヤ・サビチェヴァコンサート

9 月 7 日(金)東京、8 日(土)大阪
SAZA*E(トライフュージョン&日本組織委員会) 土屋アンナさんとのジョイント公演



14、ロシア語週間 IN JAPAN(10 月)

15、「ロシアの大地アンサンブル」公演(50 名)

—ロシア連邦政府内務省歌舞団

10 月 8 日(月)千葉県文化会館、9 日(火)埼玉会館、10 日(水)五反田ゆうほうと(日本ユーラシア協会)、11 日(木)警視庁音楽隊との交流(ポリショイサーカス)、12 日(金)大使館コンサート&レセプション(日本組織委員会)

16、ピアニスト、A・メルニコフ公演 (ジャパンアーツ)

10 月 8 日~22 日 各地

17、S・Ya・マルシャーク生誕 120 周年記念、サンクトペテルブルグ V・F コミッサフジェフスカヤ記念劇場公演「森は生きている」(36 名)

10 月 13 日~16 日東京・昭和女子大学人見記念講堂

18、国立サンクトペテルブルグ・アカデミー・バレエ

10 月 15 日~11 月 15 都市にて(アルス東京)

19、N・P・オシポフ記念ロシア民族楽器オーケストラ公演 (20名)(日本組織委員会)

10月25日(木)所沢市民文化センター(所沢支部)、26日(金)文京・シビックセンター(ポリショイサーカス)、28日(日)よこはまみらいホール(ポリショイサーカス)、29日(月)八潮・八潮市民会館予定、30日(火)カザルスホール(実行委員会・日本ユーラシア協会)

20、ロシア音楽家のマスタークラス(バラライカ・ドムラ・バレエ)

10月 東京・各地(東京バラライカアンサンブル&アルス東京)

21、ロシアと日本の創造インテリゲンチヤの代表による円卓会議(日本組織委員会) 11月2日～6日

22、V・ゲルギエフ指揮マリインスキー劇場管弦楽団の参加によるフェスティバル閉会ガラコンサート

11月5日 東京・サントリーホール(ジャパンアーツ&日本組織委員会) クロージング

23、舞台芸術の世界—ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイン(アートインプレッション)

4月17日～5月27日 釧路芸術館、6月9日～7月16日 京都国立近代美術館、7月26日～9月17日 未定、9月29日～10月28日 青森県立美術館



24、「ロマノフ王朝と近代日本」展(アートインプレッション)

2月6日～3月18日 静岡アートギャラリー、3月22日～4月5日 函館美術館、4月10日～5月27日 江戸東京博物館



25、ロシア名画祭

11月初旬「牡牛座—レーニンの肖像」(ソクーロフ監督)
「死という名の騎士」(シャフナザーロフ監督) 渋谷・ユーロスペース

26、「春のめざめ」(ペトロフ監督)公開ロードショー

3月17日～ 渋谷=シネマ・アンジェリカ
(三鷹の森ジブリ美術館・電通テック)

27、「ロストロポーヴィチ 人生の祭典」(A・ソクーロフ監督)公開ロードショー 4月 渋谷=シアター・イメージフォーラム(配給デジタルサイト)

28、ロシア民族アンサンブル「ベリョースカ」公演(大原事務所) 9月25日～10月25日 全国20都市予定

29、スピバコフ基金提供、才能ある少年ピアニスト育成コンサート「ジーマ・シーシキン」公演(大原事務所)



6月30日～7月15日 全国5都市予定

30、ダンチェンコ劇場バレエ(東京キョードー) 12月21日～29日

31、白夜映画祭 5月14日(下高井戸シネマ)

行ってきました!



～世界遺産クレムリンの奇跡～

ロシア皇帝の至宝展

5月27日(日)、昨年9月の「サンクトペテルブルグ大学ロシア語研修&モスクワ旅行」に参加された皆さんと一緒に、「世界遺産クレムリンの奇跡 ロシア皇帝の至宝展」を観に行ってきました。会場は、両国の江戸東京博物館。当日は大相撲 5月場所の千秋楽だったこともあり、両国はたくさんの人であふれかえっていました。

日本初公開のクレムリンエッグが見られるとあって、博物館にもかなりの人が足を運んでおられました。もちろん、クレムリンエッグだけでなく、クレムリン内の武器庫にコレクションされている数々の貴重な作品を見ることができます。また、クレムリン最大最古の寺院「ウスペンスキー大聖堂」の内部を、バーチャル体験することもできます。



江戸東京博物館では6月17日(日)まで、その後、大阪の国立国際美術館にて7月10日(火)から9月17日(月・祝)まで開催されます。ぜひこの機会に! 詳細はホームページ: <http://www.tbs.co.jp/kremlin2007/>にてご確認いただけます。

今回集まってくれた皆さんが良い例ですが、同時期にロシアへ留学したり、同じロシア語研修ツアーに参加したりすると、その後も機会あるごとに集まってロシアの話で盛り上がるんだそうです。JIC も元留学生との交流からいつも元気をもらいます。これからもたくさんの方にロシアへ行っていただき、楽しくロシア語を勉強していただけるようお手伝いしていけたら、と思います。

(JIC 大阪 小西章子)



ChaiKa
チャイカ
チャイカ 第一回公演 『かもめ』を終えて
チャイカプロデューサー 辻野加奈恵

4 月 21 日。たくさんのお客様の気配とそのざわめきを感じながら、開演前の緊張に私は包まれていました。もうすぐ初日の幕があく——。高校の時に演劇を始め、大学でロシア語を専攻している時にチェーホフの『かもめ』にほれ込んで、いつかこの作品を上演できれば、という想いをなんとなく持ち続けていたものの、大学を出てからはその気持ちは半ば忘れたように置き去りにしたまま、ひたすら芝居というものに関わり続けてきました。それが、ちょうど一年ほど前から自分でプロデュースをできるような環境が整ってきて、その時にこのチェーホフの『かもめ』を上演するという夢をかなえることができたと考え始めたのです。企画が動き出すと、演出の外輪能隆氏[エレベーター企画]をはじめ本当にたくさんの人々に集まってもらい、よい作品を創りたいという気持ちだけで協力してもらえることになっていったのです。

そうして迎えたこの日。意を決してお客様の前に踏み出しました。役者として何度も舞台に立っていても、この瞬間、体に走る感覚はうまく表現できません。粉になってしまった



ような気持ちと、自分がすごく大きなものであるかのような気持ち同居しているような感じとさえいいでしょう。私は、この 2 日間、4 ステージを演じながら、自分

を通してニーナという人物を考えていました。モスクワの人気作家に恋をし、美しい湖と幼なじみの恋人を捨て、モスクワへ出ていく。2 年後に女優になったニーナは、憧れとはほど遠い現実の中で、女優として生活することの地道さを受け入れ、自分の醜さもみじめさも何もかも知った上でやはり女優として再び歩み始めます。その彼女を想うと、私もこのニーナと同じ地点に、同じ境地に立つべきという気持ちがこみあげてきました。チャイカという団体を立ち上げ、プロデュースをしながら出演するというのは想像を超えるほどの大変な仕事でしたが、この 1 回目の公演を終えた今からが本当のスタートなのだと思います。何よりも、多くの方々に足を運



んでいただいたことに大きな勇気をもらいました。今後も良質な作品を舞台演劇という形で創り続けていきたいと考えています。これからのチャイカをよろしくお願いします。

チャイカ公式 HP <http://www.evkk.net/chaika/>

以下、劇評＜習慣 HIROSE＞より抜粋

劇場に入ったらまず、驚く。舞台にはまるで壁そのもののように黒い塀が建っている。その圧迫感はかなりものだ。巨大な黒板が客席に向かって、聳えている。そんなステージに装置はいくつかの箱馬と、大小2つの脚立だけ。この空間が舞台の進行と共に、あっと驚く変貌を遂げる。仕掛けはチョークである。黒板とチョーク。それが今回の魔法だ。8人の役者たちは、それぞれのキャラクターに合わせた日常的なのに、個性的な衣装を身に付ける。全員靴まで白に統一されている。彼ら関西小劇場でも屈指の役者陣がこの『かもめ』を演じることになる。

役者たちはチョークを手に持ち、背後の巨大な黒板にお絵かきをする。その絵を背景にして、演じていくのだ。黒板に描かれた絵は、この芝居の舞台美術となり、それがこの芝居の作品世界そのものと化していく。この仕掛けが面白い。芝居は演じていくはなから消えていくものなのに、この芝居には確かな痕跡が残る。舞台にはたくさんの絵がどんどん増えていき、それが目に見えて残っていく。膨大な量の宇宙がそこには広がっていく。



ニーナとコースチャを巡る群像劇なのだが、ドラマは主人公2人に収斂されていかないで、反対にどんどん拡散していく。この芝居は求心的ではなく、遠心的なものとして成立する。テキストであるチェーホフの『かもめ』を解体して、再構築し、コラージュさせていく過程で、外輪演出は、エピソードが断片として浮かび上がっていくように見せる。単純なお話を解りにくくするような形で、点描としてのエピソードが、ぽつんぽつんと見え隠れするように流れていくことで、作品は求心力を失うと同時に、この 100 年以上前の遠いロシアの戯曲は、遠くも近くもないひとつの客観的な物語として見えてくる。そのまんまのこの話が提示されることになる。

その結果、全く自分のことでないように語られるのに、この話はある種の普遍性を獲得する。今望み得る最良の形での古典の再生を、外輪演出は可能とした。

ロシア (旧ソ連国) にお友達をつくりましょう!

ペンパル募集しています!

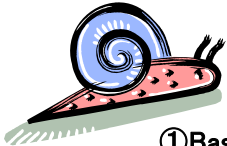
①Name ②Sex ③Born ④Address ⑤E-mail ⑥Hobby ⑦ Languages

①Anisimova Mariya ②Female ③1964 ④Russia, Moscow ⑤ modicom@i-russia.ru ⑥ Japanese, Cinema ⑦ English, Russian, French

① Sargin Oleg ② Male ③ 1973 ④ Russia, Norilsk ⑤ flycenter@mail.ru ⑥ Budo, cinema, Japanese culture ⑦ English, Japanese(romaji)

① Mezentsev Alexsey ② Male ③ 1977 ④ Russia, St.Petersburg ⑤ lexroom@mail.ru ⑥ Cinema, theatre, direction, actor's skill, music, Japanese culture and art ⑦ Russian, English

① Nikitin Vitalij ② Male ③ 1981 ④ Kazakhstan, Ust-Kamenogorsk ⑤ vitalya.81@mail.ru ⑥ Sports, Budo, Aikido, reading, walking pets ⑦ Russian, a little English



①Basova Maria ②Female ③1988 ④Russia, Moscow ⑤fujo@mail.ru ⑥Drawing, table tennis, Japanese language ⑦Russian, English

①Kibitkin Stepan ②Male ③1989 ④Belarus, Vitebsk ⑤ entil@mail.ru ⑥ Music, computers, anime ⑦ Russian, English

① Prigodskaya Ekaterina ② Female ③ 1988 ④ Russia, Leningrad region, Gatchina ⑤ nemo_kate@yahoo.com ⑥ Japanese culture, in particular, music and cinema ⑦English, Russian, Japanese

①Demin Vladimir ②Male ③1964 ④Russia, Astrahan ⑤ SDF-Astr@mail.ru ⑥ Occupation: taxi driver. Hobby: cinema, computers, science, technology ⑦Russian, English

① Galina ② Female ③ 24 years old ④ Russia ⑤ galinka_wet@yahoo.com, galinka-wet@hotmail.com ⑥ Oriental culture, reading, music and many others ⑦ Russian, German

① Shavrukov Aleksey ② Male ③ 1989 ④ Russia, Ekaterinburg ⑤ sledder@rambler.ru ⑥ Programming, natural science, Japanese culture and language. My dream is to find penpals in Japan and visit Japan. ⑦English, Russian, Japanese

①Orlova Olga ②Female ③1987 ④Russia, Moscow region, Zhukovskij town ⑤



Ai-Lu@yandex.ru ⑥Student. Hobby: music (classic, jazz etc.), drawing, sports (figure skating, rollers, bike), travel, Japanese history and culture ⑦English, Russian, a little



Japanese

①Bykhovets Anna ②Female ③1977 ④ Russia, Volgograd ⑤bykhovets@vistcom.ru ⑥Occupation: teacher of English, freelance interpreter. Interested in economics. Hobby:

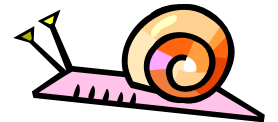
pets, tennis, swimming and riding. But No1 hobby is reading. ⑦English

①Kovyrzin Vyacheslav ②Male ③16 years old ④Russia, Kemerovo(western Siberia) ⑤ heidao@mail.ru, heidao@rambler.ru ⑥ Hobby: oriental philosophy, informatics, rock-music ⑦Any language, but English is my favorite.

①Smolentsev Evgeny ②Male ③24 years old ④Russia, Moscow ⑤NIVERHUD@YANDEX.RU ⑥Hobby: cinema ⑦ Languages: a little Japanese & English, Russian

①Ipatov Kirill ②Male ③1990 ④Russia, Kostroma town ⑤ Iheronimus@yandex.ru ⑥ Hobby: drawing, reading, listening music (metal, rock), Japanese culture, anime, manga ⑦English, Russian

①Sysoeva Lena ②Female ③1987 ④Russia, Siberia, Ust-Ilimsk ⑤ bordo98@mail.ru ⑥ Occupation: university student (geography, biology). Hobby: reading. I'm very interested in Japan and hope to find real friends among Japanese. ⑦English, Russian



①Mukhametova Sabina ②Female ③Age:19 ④Russia, Astrakhan city ⑤ aelafiel@yahoo.com ⑥ Occupation: Student at the department of Foreign Languages. Hobby: playing dombra (a kind of Kazakh shamisen), Learning traditions & legends, listening to music (classic, The Beatles, X-Japan), seeing art films ⑦English, Russian

① Olenin Vyacheslav ② Male ③ 1983 ④ Russia, Komsomolsk-na-Amure ⑤ Sovien@amgpgu.kms.ru ⑥ Programming, graphics, Japanese culture and language ⑦ Russian, English

さあ、頑張って！まずはメールでトライしてみましょう。
ロシア語が不安な方は英語でスタートしてみても？
では、すてきなお友達ができますように！

JICモスクワ通信 vol.6

モスクワは暑い!

皆さん、こんにちは!

誰も信じてくれないだろうとは思いますが、今のモスクワは東京よりずいぶん暑いです。ロシアの冬が非常に寒いというのは事実ですし、雪もたくさん降りますし、暑い日はあまり長くは続かないですが、もしかすると地球温暖化のせいかもしれません、暑くてたまりません!

赤の広場の近くにアレクサンドル公園と「アホートヌイ・リヤード」という地下ショッピングセンターがあります。モスクワっ子は毎年夏になると、その間にある噴水・・・シャワーを浴びます。日光の暑さを我慢できなくて、噴水のお水に入って遊んだりゲームしたりする人が多いのです。今の天気は「モスクワの異例」といいます。昨年までの5月のお天気と比べて、今年の5月が一番暑くなる可能性が高いと言われています。

「5 月がこんなに暑くなるのなら、夏はどうなることやら」とみんなは心配しています。でも夏に暑くなるか寒くなるか、まだ判断できません。ただ今年は気温の最高・最低記録更新が特に多いので、「普通の夏」にはならないと思います。

モスクワはソ連時代から「5 海の港」といわれていますが、モスクワから海まではかなり遠いです。黒海、アゾフ海、カスピ海、白海、バルト海、いずれも 1000 キロくらい離れています。一番人気なのは、列車で行くウクライナのクリミア半島のリゾートか、ロシアのコーカサス地方のリゾートです。大体、寝台列車で 25 時間ぐらいかかります。もちろん、ソチまでもクリミアのシンフェローポリ市まで飛行機が飛んでいますが、列車で行くと、旅行はより面白くなります。寝台列車



の一車両の客は大きな家族のようになって、一緒に食べたりお茶を飲んだり、ときには歌を歌ったりしますので、リゾートの雰囲気は列車に乗り込んですぐに感じはじめます。

皆さんの夏の計画はいかがですか?

(JIC モスクワ トカチェンコ・ドミトリー)

阿部昇吉先生の ロシア文学カフェ

ロシア情報センター 連続講座

5 月 26 日(土)、東京・ロシア情報センターにおいて、JIC 連続講座「ロシア文学カフェ」の

第 1 回が開催されました。この連続講座でお話を聞かせてくださるのは、ユニークな語学書の執筆や翻訳でおなじみの阿部昇吉先生です。「文学の誕生」とタイトルのついた第 1 回は、ロシア文学の確立された 19 世紀の初頭に活躍したプーシキンについてさまざまな側面からお話をしていただきました。

プーシキンはロシア文学創成期と見なされる時代にたまたま活躍していた、というわけではなく、彼自身がロシア語による文学を創り出したとも言われている詩人・作家なわけですが、プーシキンがどうすごいか、プーシキンはどんなことをしたのか、詩人とも作家とも呼ばれるプーシキンの作風はどのように変わっていったのか、それはなぜなのか等々について興味深いお話をお聞きすることができました。

会場は「阿部昇吉ゼミ」といった雰囲気。参加者の方には、お茶を飲んでいただ



きながら、プロジェクターによるスライドショーで「イメージを目で確認」していただきつつ、時折「板書」の内容をメモしたりしながら、ゆっ

たりした感じでお楽しみいただけたのではないかと思います。

今回、朗読者による朗読で鑑賞したのは「ベールイキン物語」から「駅長」、「エヴゲーニイ・オネーギン」の中のタチヤーナの手紙とタチヤーナの説教(?)でした。さらに、阿部先生自らによる紙芝居(!)で「スペードの女王」を味わうことができました。とても興味深かったです。

なんといっても阿部先生の雰囲気と語りがすばらしく、講座後のアンケートでも、皆さんがその点にふれていらっしゃいました。第 2 回以降も、現代日本に生きる私たちに、19 世紀ロシアの文学作品をわかりやすく解説して下さるというだけでなく、その時代にその作家がどんな社会的状況と個人的事情を背景にそれぞれの作品を生み出したのかについて興味深くお話いただけることでしょう。

◆今後のスケジュール◆ 各回とも 15:00~

- 第 2 回 6 月 9 日「狂気の彼方に」
- 第 3 回 6 月 23 日「ロシアの民衆」
- 第 4 回 7 月 14 日「叛逆のセレモニー」
- 第 5 回 7 月 28 日「鉄人よ、いずこへ」
- 第 6 回 8 月 11 日「恋と愛のはざ間で」

会場: 東京・新宿区四谷 ロシア情報センター

参加費: 1 回あたり 一般 2,000 円

JIC ロシア語講座受講生 1,500 円

お問合せ: 国際親善交流センター Tel: 03-3355-7294





サンクトペテルブルグ大学ロシア語研修 & モスクワ旅行

2007年9月4日(火)~22日(土) 全19日間

成田・関空発

7月2日(月)締切!

¥335,000-

旅行企画実施: ジューアイシー旅行センター(株)

2 週間のサンクトペテルブルグ大学でのロシア語研修とモスクワ旅行がセットされた毎年恒例のお勧めプラン。ペテルブルグ滞在時には、学校に通いながら、休日はたっぷり観光を。研修終了後にモスクワを訪れます。ロシア語研修も観光も十分楽しめる、盛りだくさんのプランです!

* * * * *

最少催行人数: 6 名 添乗員: なし(15 名以上の場合とは同行)

ビザ代・取得代行手数料・空港諸税など別途必要となります。



*** JIC ロシア語講座 好評開講中! ***

JIC のロシア語講座をご存知ですか? 東京・大阪各会場にて現在、前期講座が開講中です。途中からの受講も可能ですし、ご希望の方は見学もしていただけます。ロシア語学習に興味のある方はぜひお気軽にお問い合わせ下さい!

*** 東京 *** TEL: 03-3355-7287

受講料: 54,000 円

*** 大阪 *** TEL: 06-6944-2315

受講料: 35,000 円

<入門 I> 火曜日 19:00-20:30

(全 18 回)

<入門> 火曜日 19:00-20:30

(全 15 回)

<入門 II> 月曜日 19:00-20:30

場所: ロシア情報センター

<初級> 木曜日 19:00-20:30

場所: JIC 大阪オフィス

<初 級> 月曜日 19:00-20:30

(東京・四谷)

<中級> 金曜日 19:00-20:30

(大阪・天満橋)

<中 級> 水曜日 19:00-20:30

<上級講読> 木曜日 19:00-20:30

<上級会話> 金曜日 19:00-20:30

<土曜クラス> 土曜日 12:00-13:30



詳細は、JIC 東京・大阪各オフィスまで資料をご請求下さい!

5 月 12 日(土)、
東京の在日ロシア
大使館付属学校に
て毎年恒例のロシ
アンフェスタが開
かれました。また大阪
でも 6 月 3 日(日)、



JIC ロシアフェアを行いました。ロシア・旧ソ連圏の
方、ロシアに興味をもった皆さんの皆さんにお集まりい
ただき、本当にありがとうございました! 大阪の JIC フェ

アは次回 12 月の予定です。どうぞ

お楽しみに!!

イベント報告!

「ロシア絵画の真髄」 サンクトペテルブルグ 国立ロシア美術館展

東京都美術館 開催中~7 月 8 日(日)まで

午前 9 時~午後 5 時(入室は閉室の 30 分前まで)

入場料: 一般 1,400 円ほか

問合せ: 産経新聞社事業局 03-3275-8904

www.rusmuseum.jp

ニーナ・アナニアシヴィリ

グルジア国立バレエ「白鳥の湖」



大阪フェスティバルホール 7 月 29 日(日)

開演 17 時

S 席 14,000 円、A 席 11,000 円、B 席 8,000 円ほか

大阪他、東京・横須賀・福岡などでも公演あり。

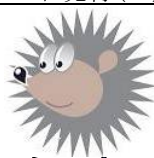
6~9月の予定

6月 9日(土) 留学相談会(東京)
 6月 15日(金) 9月出発ロシア長期留学生 申込締切
 6月 30日(土) 留学相談会(大阪)
 7月 2日(月) 夏のロシア語短期研修旅行 申込締切り
 8月 4日(土) 9月出発ロシア長期留学生事前説明会(東京・大阪)
 9月 4日(火) 夏のロシア語短期研修旅行 出発

最新情報、追加情報はホームページでご紹介しています♪
 お問い合わせはお気軽にどうぞ!

JICのホームページを
 チェックしよう!

<http://www.jic-web.co.jp>



JICロシア語講座
 4月より開講中

東京&大阪 詳細は15ページです。

ロシア長期留学9月生・募集中

【期間】2007 年 9 月より 10 ヶ月

【締切】2007 年 6 月 15 日

モスクワ国立大学 \$ 7700 (授業料 10 ヶ月)

サクト・ペテルブルグ 国立大学 \$ 4210 (授業料 10 ヶ月)

ウラジオストク極東大学 \$ 2800 (授業料 10 ヶ月)

* 上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などがかります。

締切直前!!

ロシア語グループ&個人研修 (随時募集)

リテン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校。

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。2週間より可能。基本はホームステイ 2 食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



NEW デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアプーシキン博物館の協力により設立された学校で、18 世紀の建物内で授業が行われます。アットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1週間より可能。基本はホームステイ 2 食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



ロシア語個人研修 (随時募集)

☆モスクワ・ダリパス社 1 週間~1 ヶ月(ホームステイ 3 食付)

☆モスクワ大学 1 週間~長期 (大学寮 1 人部屋)

☆G&R インターナショナル 1 週間~長期
 (ホームステイ 2 食付/大学寮 2 人部屋)

☆ペテルブルグ・パートナー社 (ホームステイ 2 食付)

☆ペテルブルグ文化大学 1 週間~長期

(ホームステイ 2 食付/大学寮)

☆ウラジオストク極東大学 1 週間~長期(大学寮 1 人部屋)

☆ウラジオストク極東大学 1 週間~1 ヶ月(ホームステイ 2 食付)

☆ホームステイ生活体験コース 1 週間~4 週間

留学・研修各種パンフレットは JIC へ
 ご請求ください。留学・旅行相談お気軽に!

ロシア留学旅行相談 (東京・大阪各事務所)

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に
 応じます。お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18 時 土曜 10-16 時
 大阪事務所 平日 10-18 時 土曜 (6-9 月のみ) 10-16 時

JIC は頑張る人を応援します!

旧ソ連関係のイベント案内掲載をご希望の方は JIC までご相談ください。イベント時期の約 2 ヶ月前に情報をお送りください。JIC インフォメーションの発行は、1・2・4・6・9・11 月の 6 回となります。

掲載内容が JIC の活動に合わない場合はお断りする場合がありますのでご了承ください。

~Jクラブ (JIC友の会) のご案内~

JIC インフォメーションを年 6 回、また JIC のイベント案内をもれなくお届けします。
 ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。
 国際親善交流センター